

令和6年度介護テクノロジー定着支援補助事業者アンケート  
集計結果

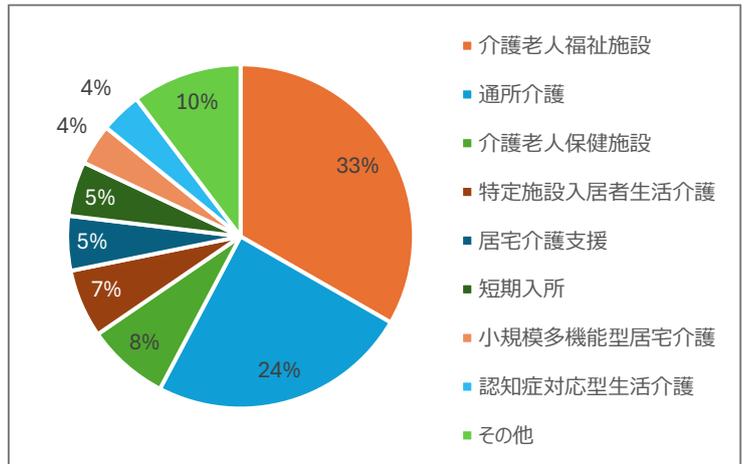
【調査概要】

- 趣旨 R6年度定着支援事業によるテクノロジー導入からおよそ半年が経過することから、現時点での活用状況、業務改善効果を確認するとともに、課題がある場合は把握し解決に向けての支援開始の契機とする。
- 目的 (ア)活用状況および業務改善効果を確認し、事業の効果を検証する  
(イ)導入活用プロセスにおいて直面した課題とその解決策等を明らかにし、今後の支援活動に活用する  
(ウ)効果を上げている事例や活用の工夫点を収集し、横展開すべき好事例を発掘する  
(エ)活用に苦戦している事業者に対する支援の契機とする
- 対象 補助対象となった188事業所すべて
- 方法 アンケートフォーム（google form）を活用したオンライン
- 期間 令和7年11月11日～11月27日
- 回答 79事業所（回答率42.0%）

【調査結果】

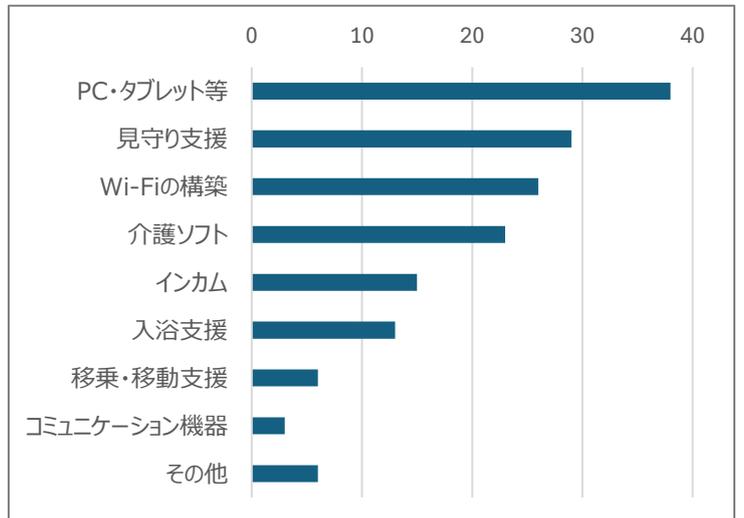
問1 回答者のサービス種別（n=78）

介護老人福祉施設	26
通所介護	19
介護老人保健施設	6
特定施設入居者生活介護	5
居宅介護支援	4
短期入所	4
小規模多機能型居宅介護	3
認知症対応型生活介護	3
その他	8



問2 補助を受けて導入したテクノロジーの種類（複数回答）

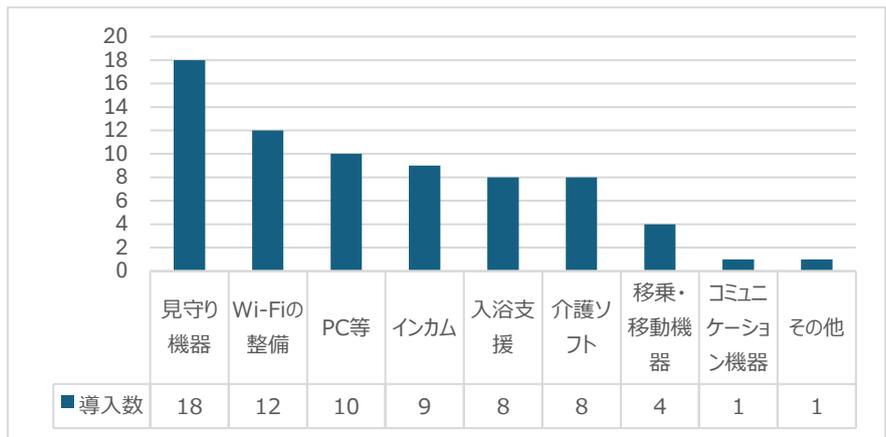
PC・タブレット等	38
見守り支援	29
Wi-Fiの構築	26
介護ソフト	23
インカム	15
入浴支援	13
移乗・移動支援	6
コミュニケーション機器	3
その他	6



問2-1 サービス種別別の導入テクノロジー

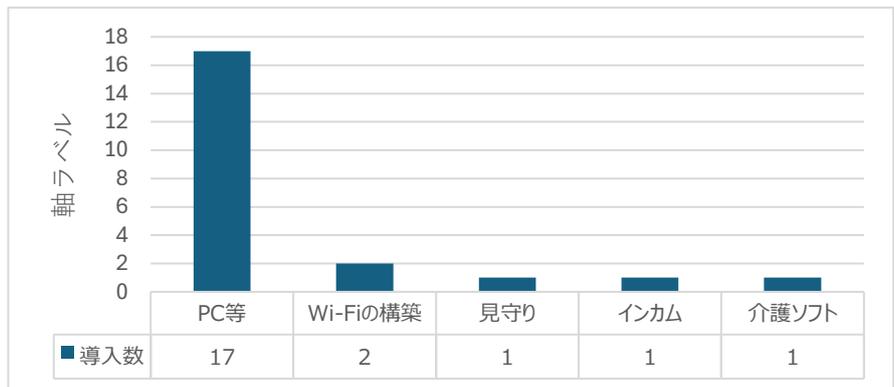
①介護老人福祉施設（複数回答）

見守り機器	18
Wi-Fiの整備	12
PC等	10
インカム	9
入浴支援	8
介護ソフト	8
移乗・移動機器	4
コミュニケーション機器	1
その他	1



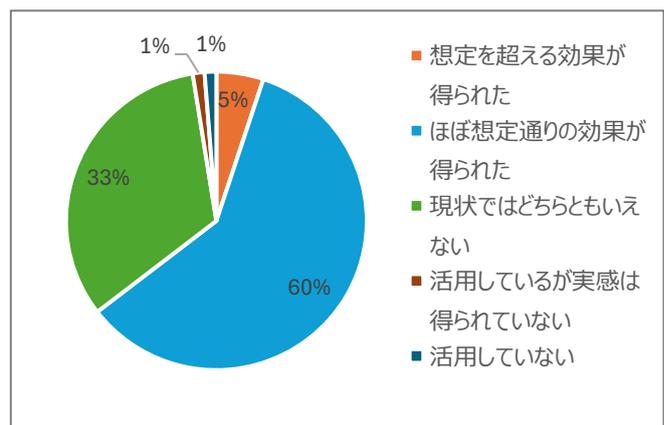
②通所介護（複数回答）

PC等	17
Wi-Fiの構築	2
見守り	1
インカム	1
介護ソフト	1



問3 業務改善効果の実感（n=79）

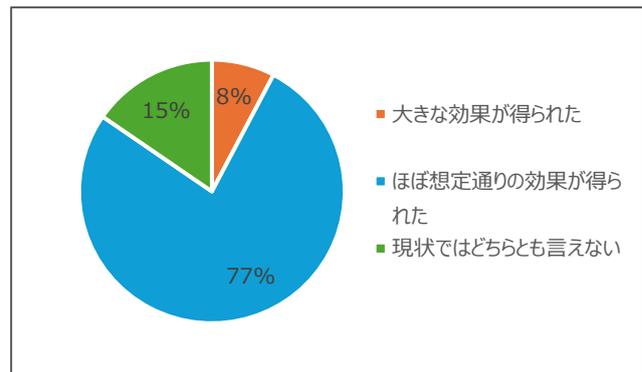
想定を超える効果が得られた	4
ほぼ想定通りの効果が得られた	47
現状ではどちらともいえない	26
活用しているが実感は得られていない	1
活用していない	1



問3-1 サービス種別別業務改善効果の実感

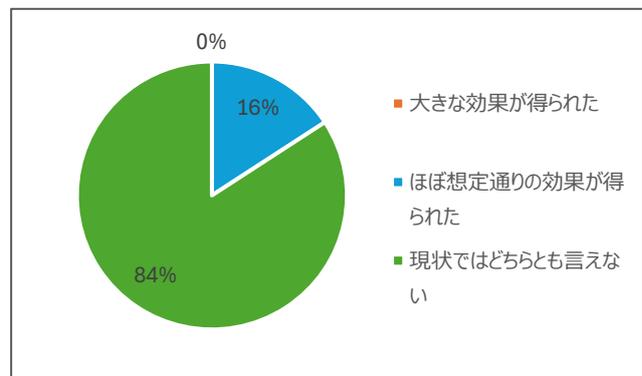
①介護老人福祉施設 (n=26)

大きな効果が得られた	2
ほぼ想定通りの効果が得られた	20
現状ではどちらとも言えない	4



②通所介護 (n=19)

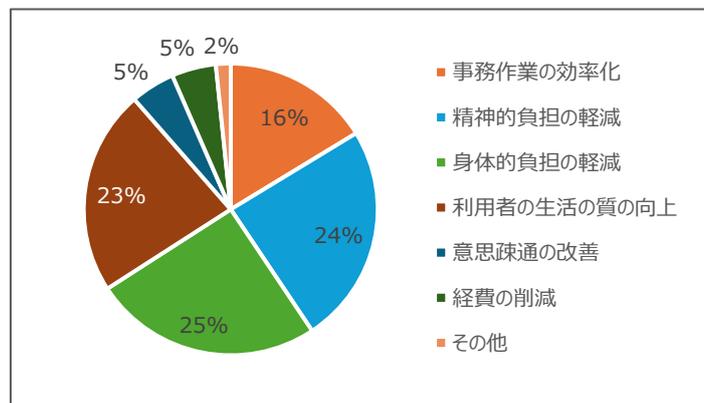
大きな効果が得られた	0
ほぼ想定通りの効果が得られた	3
現状ではどちらとも言えない	16



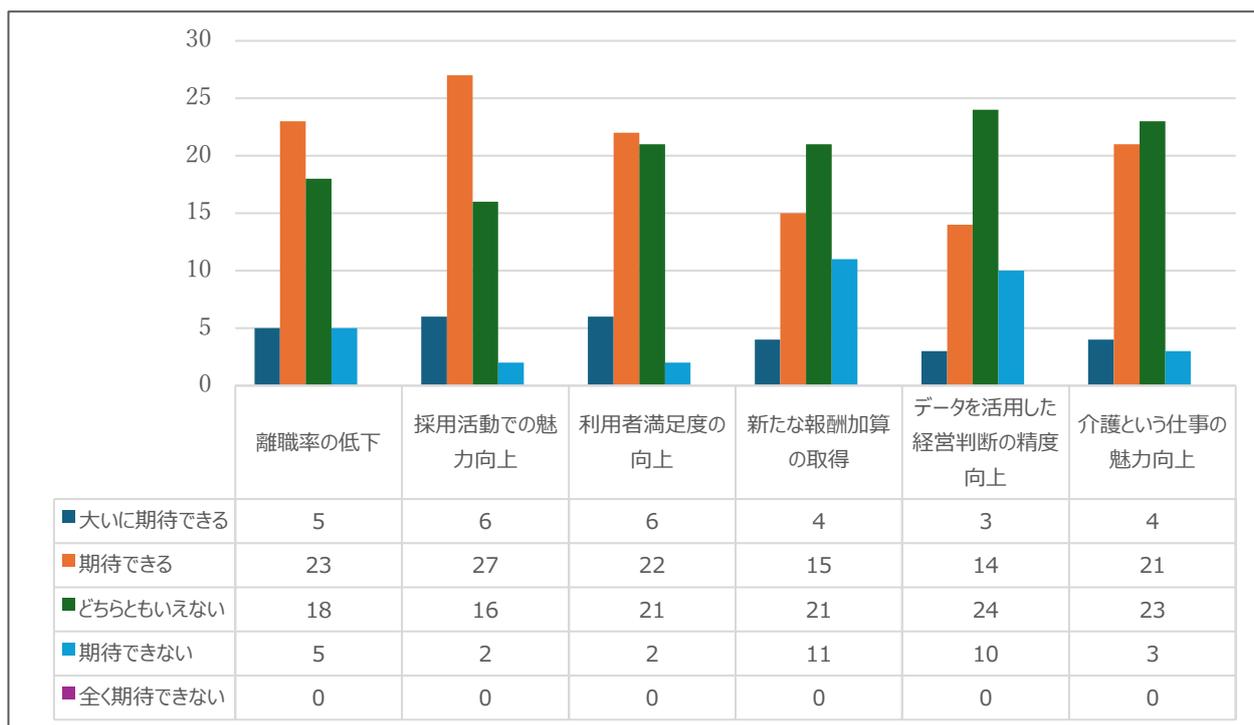
問3-2 「想定を超える効果が得られた」「ほぼ想定通りの効果が得られた」回答の詳細集計

①得られた効果の具体的内容 (複数回答)

記録や情報共有、請求など事務作業の効率が向上した	20
職員の精神的な負担感が軽減した	30
職員の身体的な負担感が軽減した	31
利用者の安全や生活の質向上につながった	28
職場内の意思疎通が改善した	6
ペーパーレス化などにより経費削減の効果があつた	6
その他	2



## ②テクノロジー導入の影響（複数回答）



## ③業務改善の実感につながる導入プロセスで、効果的だった取り組みや工夫

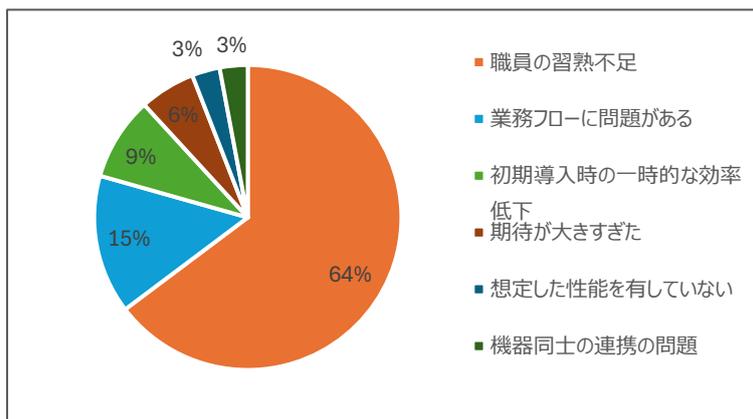
- 介護度の高い入居者が増える中、個浴（ユニット毎に1台）機械浴（施設に1台）での安全で快適な入浴支援が難しくなっていた。職員の腰痛予防対策としても入浴、退浴時の介助負担が大きくなってきたため、導入に向けて取り組んだ。設置後は入居者のADLに合わせた入浴介助ができるようになったこと、職員の介助負担が軽減した。
- 申請時点で、社内で使用していたノートパソコン製品の中から、職員に聞き取りをはかり、最も使いやすさを確認した製品を導入した。
- 業務改善のための委員会の設置（役職にこだわらない委員会メンバーの募集）
- 生産性向上推進委員会を立ち上げ現場からの問題点の吸い上げと分析により導入した為、良い結果に結び付ける事が出来た。
- 勉強会の実施、メリット、デメリットの共有
- 職員間の連絡や申し送りをインカムにて実施
- 機器メーカーによる説明会
- 入所者の身体状況に合わせた入浴介助を行う方法を話し合った
- 利用する職員が抵抗なく受け入れ、必要に応じて、理解しやすい説明書を作成した。
- 入浴リフトを導入することで、入浴の手順に関する見直しが全スタッフで行えた。
- 委員会内で電子化の運用方法を検討しながら、現場や導入ソフト業者と相談し運用していったこと。
- インカム導入については、職員が自己発信をするうえでのきっかけになっており、円滑な業務の為には欠かせないアイテムとなっている。
- 見守りカメラについては、画像で確認できるため、事故時の様子の確認もでき、一部対策に繋がっている。ターミナル期の状態把握についてはまだ、数値設定の検討が微妙であるため、個々に合わせた設定が難しい。

- テクノロジー機器の選定から導入を、プロジェクトチームを稼働させ職員が主体的に行えたこと・施設による改革への意思表示（旧態依然とした介護文化・制度に対し諦めかけていた空気感に改革の意思表示ができたことで職員が変化に対する期待値が向上している）
- 導入前、導入時に業者により有効性などの勉強会を実施
- 記録に対するストレスの軽減により職員のモチベーション UP につながったと感じる
- インカムについてはスタッフ間の情報共有や緊急時の応援要請に活躍してます。安心ひつじについては、見守りが必要な方、特に呼吸が心配な方がいないため、まだ効果あまり見られません。今後、利用者の幅を広げられるツールになる事を期待してます。
- タブレットを持参し、利用することで苦手意識が軽減し、自分から使いたいと言うスタッフが増えた。
- 導入することによるメリットを使用するスタッフに都度伝えたこと
- タブレット、介護ソフトの使用について業者のデモを受けたことで、機器導入後すぐに使用できた。
- 記録時間の短縮により新たに生産性向上委員会が行われるようになり、業務の見直し等が行えるようになった。
- 成功例をいくつか作り、達成感を持たせる事で意識向上につながった
- 導入時に施設内研修で、全職員に介護テクノロジーの導入意味合い、使用方法、業務改善、を周知したことにより、導入後のスムーズな活用につながっている。
- 安全かつ円滑な作業で、担当職員の負担軽減が図られています。
- テクノロジー活用により職員がほかの業務に入れるようになった
- 記録が重複することがなくなった。
- 若手リーダーを巻き込んでの導入が効果的と感じました
- ADL が低下した入居者様の入浴介助が安全に行えるようになった。
- 多動のご入居者の動向把握が訪室せずにある程度分かることが職員の負担軽減に繋がった
- 導入前の情報収集、デモより職員中心に評価する（リスク回避、効果など実践、体験させること）、テクノロジー・生産性向上・職場安全衛生委員会等での意見交換より職員の導入への意識統一、
- どこでも介護記録をすることができるため、より記録の負担を軽減することができます。記録の負担を軽減することで職員も負担軽減となっています。また記録時間を効率化することで空いた時間を使い、レクリエーション等の充実を図ることができ、施設全体のサービスの質の向上につながっていると感じます。
- 今のところ確認できない
- ICT 機器の導入にあたり、先ず、職員が機器の機能を十分に理解したうえで、適切な運用に繋げることができるよう、運用前に複数回職員向けの研修を行った。また、独自の取扱いマニュアルを整備したほか、導入効果を確認するために導入開始後、3 か月後に職員アンケートを実施した。
- 記録を記入する時間が短縮できた

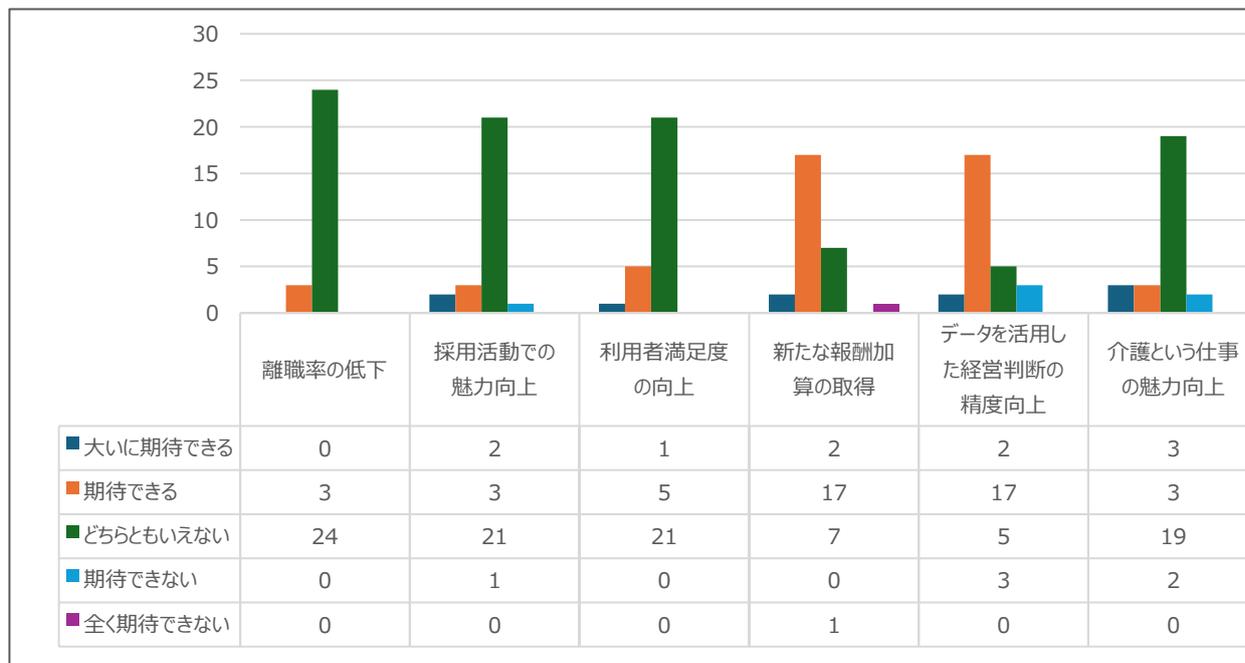
問3-3 「どちらとも言えない」「効果の実感が得られていない」回答の詳細集計

①効果を得られていない理由（複数回答）

職員の習熟が進まず十分に活用されていない	22
活用はしているが業務フローの見直しが出来ていない	5
導入初期の一時的な効率低下の段階にある（U字の法則）	3
期待が大きすぎた	2
機器やソフト、システム自体が想定した性能を有していない	1
WiFi などの通信環境や機器同士の連携の問題で想定した活用ができていない	1



②テクノロジー導入の影響（n = 27）

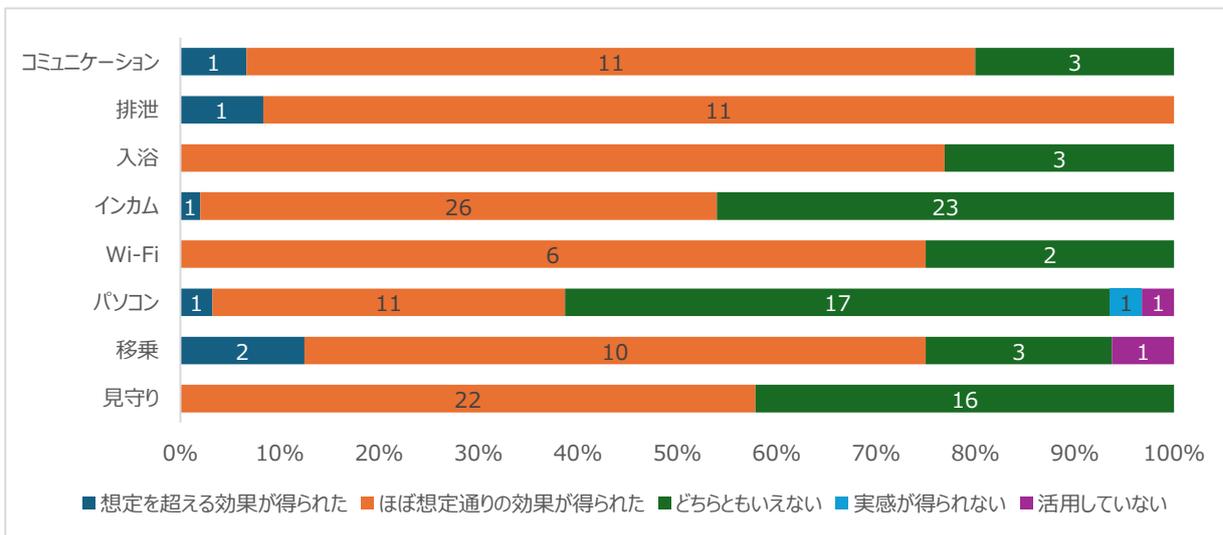


問3-3 「活用していない」回答の詳細集計

①「活用していない」理由

職員が使いたがらない、使ってくれない 1

問3-4 導入テクノロジーごとの業務改善効果の評価の詳細終形



問4 今後の介護テクノロジー導入の考え方 (n = 78)

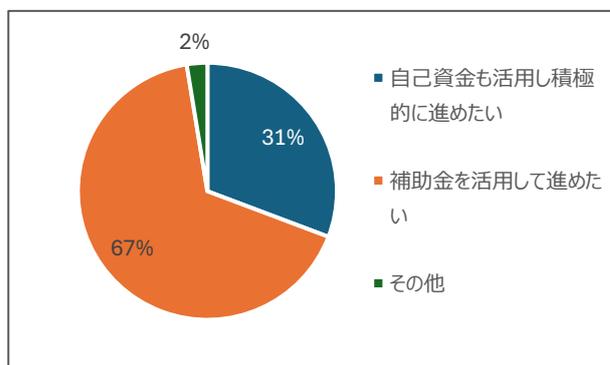
自己資金も活用し積極的に進めたい 24

補助金を活用して進めたい 52

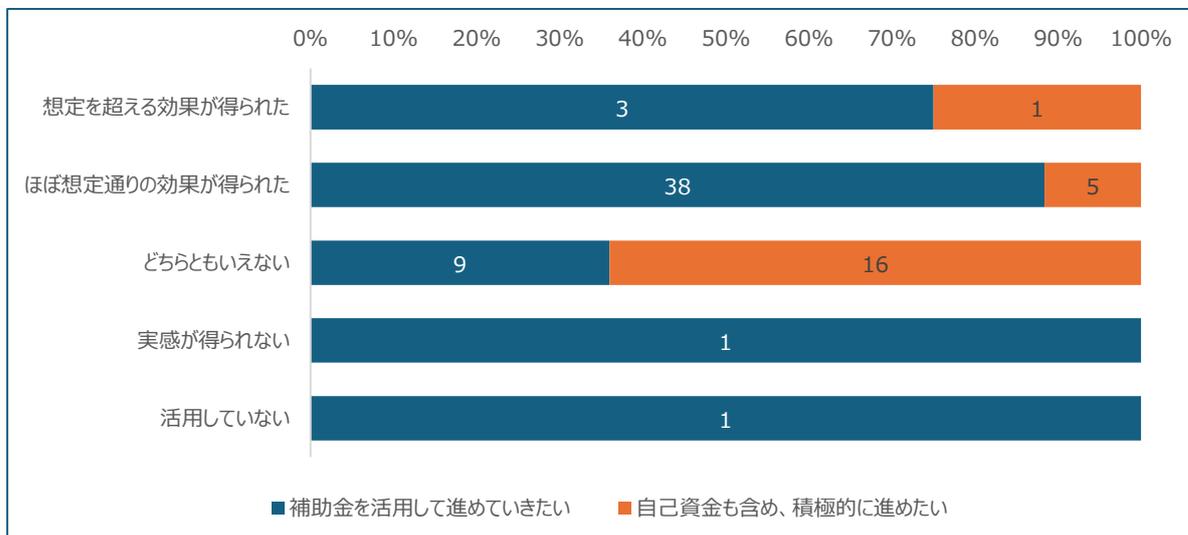
その他 2

(いったん立ち止まって様子を見たい)

(維持費がかかるのでどうしていいかわからない)

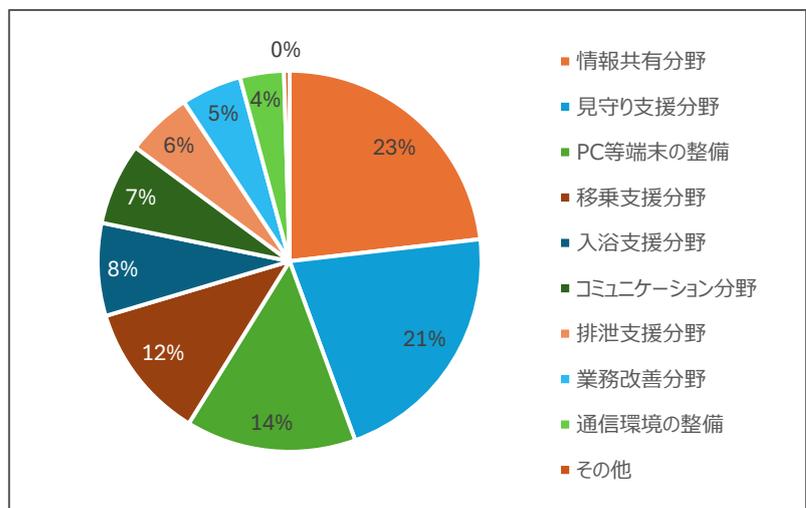


問4-1 導入効果の評価ごとの考え方



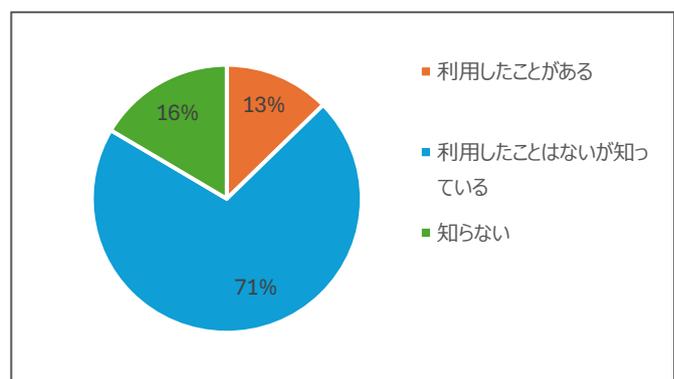
問5 今後進めていきたい業務改善の分野（複数回答）

インカムやチャットツールなど職員間の情報共有分野	50
転倒予防など見守り支援分野	46
パソコンやスマホ、タブレットなど端末の整備	31
腰痛予防など職員の身体的負担を軽減する移乗支援分野	25
腰痛予防など職員の身体的負担を軽減する入浴支援分野	17
認知症対応などコミュニケーション分野	15
オムツ交換の効率化などを目指す排泄支援分野	12
介護ソフトなど業務改善分野	11
WiFi等の通信環境の整備	8
その他	1



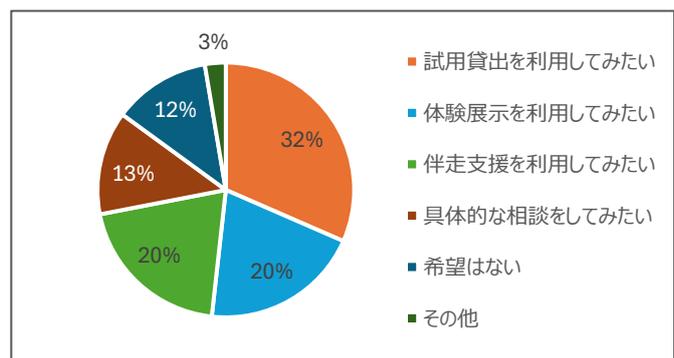
問6-1 介護のしごとサポートセンターの認知（n = 79）

利用したことがある	10
利用したことはないが知っている	56
知らない	13

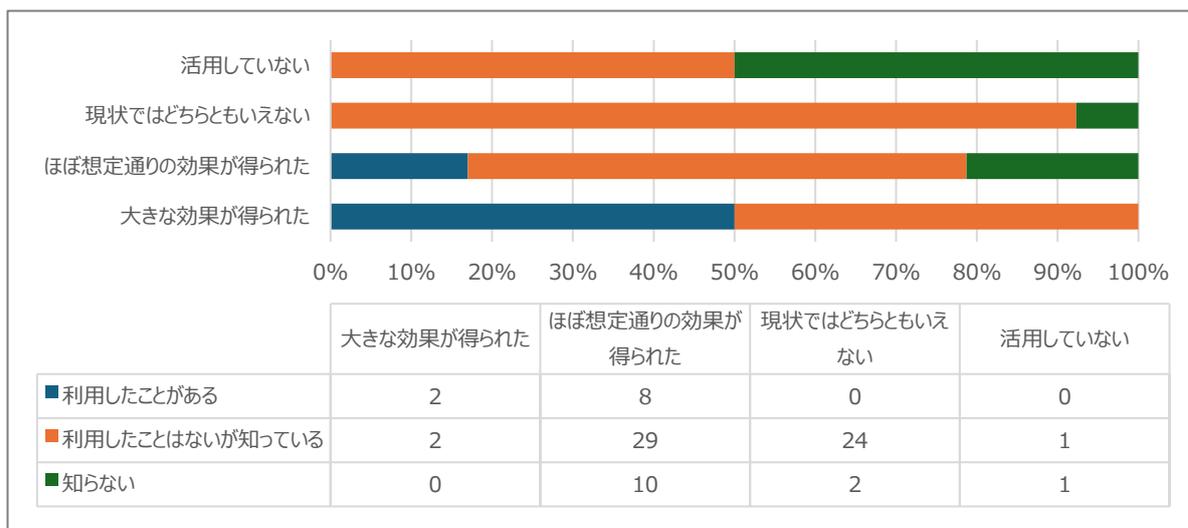


問6-2 介護のしごとサポートセンターの利用意向

試用貸出を利用してみたい	36
体験展示を利用してみたい	23
伴走支援を利用してみたい	23
具体的な相談をしてみたい	15
希望はない	14
その他	3



### 問 6 - 3 センターの認知ごとの業務改善効果の評価



### 問 7 自由記載（ご意見・ご相談・ご質問）

- 別件ですが、現在社内のコミュニケーションツールとして LINE Works を使用し送りや伝達をチャットで行っています。このアプリには業務日誌や掲示板テンプレート機能が付いていますが、LINE Works の業務日誌機能を介護記録の I C T 化として運用することは可能でしょうか？
- それぞれの施設によって導入機器は異なるのでしょうか、どんな機器が多く導入されているのか情報が欲しい。施設でアンケートを実施したがどんな機器を導入するとよいのかわからない。またどんな機器を導入することにより職員の定着、確保ができるのかわからない。
- 補助金等を利用して導入しても維持費、修繕費を考えてしまう。維持費や修繕の補助などはあるのか。
- 今回、介護テクノロジー助成金について、助成金があることが分かってから、色々調べました。もっと知りたい・導入したい・こんなことできるんだ。ということがありました。日々業務に追われ、何が必要か・何を導入したらどんな効果があるのか、実際、導入した施設などの実績（体験談）など知ることを希望します。現場の声が欲しいです。
- ケアプランデータ連携システムを導入しましたが、居宅支援事業所だけが導入しても効果はなく、介護事業所にも導入を資料やフリーパスのチラシを配布し勧めています。同法人内の事業所はほとんどが導入し活用を始めていますが、他事業所の導入は僅か数事業所で、業務改善には程遠い現状です。どうしたら普及するのか悩んでいます。
- デイサービスにおいて相談員が行う事務業務がかなりのボリュームがある。計画書作成や議事録作成等を効率的に行う為の I C T 機器やツールがあれば教えて頂きたい。低コストで考えています。
- 補助金の申請はもっと簡単にできた方が良いと思う。今後は AI 機器も対象として欲しい。